

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
簿記論	企業活動を記録する	大田 博樹	2年次前期
講義の目的	簿記は企業の経済活動を貨幣単位によって測定し、その企業が所有する財産の状態や経営成績を明らかにする技法です。本講義では、実際に企業で使われている「簿記」という記録方法を学習することで、社会人として必要な「お金の流れ」を理解する能力を身に付けることを目的としています。 1年次の「会計の基礎」で学んだ財務諸表は、簿記の情報を基に作成されています。企業活動がどのように記録され、財務諸表が作成されるのかを学びます。ただし、会計学の初学者を対象としていますので、必ずしも「会計の基礎」を履修している必要はありません		
到達目標	簿記の知識を身に付けることにより、企業活動をお金の視点で分析することができるようになります。たとえば、回数券や定期券の販売は、鉄道会社の売上にどのような影響を及ぼすのか、などについて理解することができます。本講義では、履修者が仕訳のルールや勘定科目を理解し、基本的な取引の処理が出来るようになることを目指します。		
講義内容	講義の内容は、基礎的な簿記の原理を習得することを目的に編成されます。主として、サービス業および商業における簿記を学習することを通じて、現代簿記の基本原則を習得することに努めます。特に本講義では、鉄道をはじめとした交通関連企業の取引についても取り扱います。必要に応じて簿記検定の情報提供も行う予定です。なお、講義内容については、時間の関係で若干前後することもあります。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーションー講義の内容、評価方法などの説明	
	第2講	簿記の意義と種類	
	第3講	仕訳のルール	
	第4講	現金・預金の処理	
	第5講	小切手の役割とその処理	
	第6講	商品売買の処理	
	第7講	売掛金の処理	
	第8講	その他の債権・債務の処理	
	第9講	鉄道業の運賃の処理	
	第10講	バス・貨物事業者の特徴と運賃の処理	
	第11講	航空・海運業の特徴と運賃の処理	
	第12講	総勘定元帳の役割と転記	
	第13講	総勘定元帳と試算表の作成	
	第14講	試算表と財務諸表	
	第15講	まとめ	
方法指導	講義はテーマごとに解説し、問題演習を中心に行っていきます。簿記は、技術性の高い科目ですので、演習がとても大切です。そのため問題演習には積極的に参加してください。なお、講義には電卓があった方が便利です。		
授業外学習	事前学習の必要はありませんが、日常的に新聞等により企業の経営に関心を持つようにしてください。また、事後学習としては、授業内での配付プリントの反復練習に努めることが重要です。		
成績評価方法	平常点（授業内でのミニテスト）20%、本試験（筆記試験）80%で行ないます。		
テキスト	指定テキストはありません。必要な資料はプリントを配布します。		
書籍参考	渡部裕亘ほか（2018）『3級商業簿記』		
事項記			